

千年の森便り No.188

2019.3.22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

2月26日(火) 晴 臨時活動日

参加者：及川、久我夫婦、坂本（田圃作業に専念）、高橋洋子の5名。

臨時活動の主な目的は前回やり残した農地の作業でした。前は急な黒雲接近で早めに作業を切り上げた為、ブルーベリーの植え付け用地が中途半端でした。休耕水田の跡地ですから、そのまま植えたのでは過湿障害の心配があるので、周囲の土を盛り上げて野球のピッチャーマウンドのようにする必要があります。これを5メートル間隔で10個作り、それぞれに苗を植え付けました。

ウルイ（オオバギボウシ）用の畝は前回作ってあったので、それに苗を植え付けました。全部で60株以上です。これからシカの食害対策も講じなければなりません。

皆さん寒い中での作業お疲れ様でした。高橋さん珍味の差し入れ毎回ありがとうございます。すべて美味しく頂きました。久我さんの奥様には農地脇でお弁当用汁物の野外調理をお願いしました。かまどの近くは煙かったと思います。有難うございました。（坂本）



寒い日の参加の皆さん



ブルーベリー植え付け

3月17日(日) 晴 3月定例活動日

参加会員は秋元、伊藤、鶴沢、及川、大原、久我夫妻、栗山、坂本、成沢、福島、松田、山口の13名。

中央博の尾崎さんがヒメコマツ調査に来訪され、県森林課の色川さんも参加されて合計15名でした。

思わぬ好天にも恵まれ、豊島島はすっかり春の雰囲気でした。まずは今年4回目になるニホンジカ調査を全員で行い、その後は、倒木や古いホダ木の片付けなどの林内整備（久我夫妻）、ヒメフタバランなどの植物調査（福島、栗山、秋元）、最近不調のセンサーカメラの改善の試み（及川）、アオキの生育状況確認（福島、及川）、新たなシカ保護柵の設置準備（伊藤、鶴沢、成川）、島外農地の耕作（坂本、色川）などを分担して行いました。中央博の尾崎さんのヒメコマツ調査には大原さんが補助につきました。



好天候に恵まれて



ヒメコマツ調査



植生保護柵設置

さまざまな課題を抱えながらも2018年度の活動が怪我もなく終わったことに感謝です。

4月には新元号が発表になります。当会の活動は4月13日で16年目になりますが、新たな時代にどんな展開が待ち受けているのでしょうか。（伊藤）

○ニホンジカ生息状況調査

朝イチの活動として、ニホンジカ生息状況調査を行いました。この調査は、3か月ごとに年4回実施している調査で、今回は2018年度の4回目（最終回）になります。

10:00スタートで約30分、島内を7コースに分けて一斉に踏査を行いニホンジカの生息状況を調査しました。前回と同様にニホンジカの目撃はありませんでしたが、フンはあちこちで確認され、島は継続的に利用されているようです。

また、有毒植物といわれ、通常は食べないとされているミヤマシキミにも食害と食害で葉のないミヤマシキミ(栗山)と思われる痕跡がありました(便り186号参照)。

ニホンジカが好きなアオキについては、以前は入り江付近に多く残っていましたが、今回、及川さんと見に行ったところ、大きな木も樹皮を食べられてほとんどが枯れてしまっていました(福島)



○ヒメフタバランなど花や蕾

『ヒメフタバランが咲いている』との福島さんの情報により、この島の最もハードな区域(禁断の岬のかけ下)に向かいました。このヒメフタバランは千葉県最重要保護Aランクとなっています。途中、ミヤマシキミは蕾をつけ、ツチグリはほぼ完全な形で斜面の落葉の上にあります。斜面を歩くこと15分、目指す場所に到着しました。2016年に入会してから、初めてこの花を見ました。3株が花をつけ、そのあたりには数多くのヒメフタバランが見られました。福島さんによると7株は咲いていたとのこと。まだまだ、観察が足りないようです。植物探索の目をもっともっと、養いたと思います(秋元)



ヒメフタバラン



シュンラン(福島)



ヒガンナムシグサ



マメザクラ(栗山)



コショウノキ(栗山)



クロモジ

○センサーカメラの画像から

2月21日にノウサギとアライグマが吊り橋を渡りました。

2月22日にはハシブトガラスが写っています。場所はアナグマの巣穴付近ですが肝心のアナグマは写っていませんでした。(坂本)



アライグマ(2/21)



ハシブトガラス(2/22)

○センサーカメラの耐環境性とメンテナンス作業効率の向上を目指して

一部耐環境性が低く、バッテリー・SDメモリの交換作業時に各種接続部の接触不良により動作不良が生じ、長いと午前中の活動時間をすべて消費してしまう無駄を生じるセンサーカメラのメンテナンス作業。その耐環境性とメンテナンス作業効率の向上を目的に、プラスチック製密閉容器 1 基を試作しました。

赤外線センサーであれば試作機の透明度があれば十分に透過し機能すると考えていました。しかしながら、活動後に福島さんにチェックしていただいたところ、モーションセンサーが機能しないとのことでした。こちらの想定に何かしらの誤りがあったようです。カメラ本体に改造を加えない限り、これ以上の加工はDIYの範疇を超えるため無理があると考えます。

私も全活動日に参加できるとは限りません。会全体の月 1 回のフィールドワークの時間を有効に活用するためにも、耐環境性・現地作業性に配慮された機種への更新を提案します。価格に大きな差がなければ、動画が録画できるタイプがより好ましいと考えます。(及川)

○畑の作業

先月に引き続き畑仕事に専念しました。里芋の作付けリクエストにより、その準備のための畝作りを急ぐ必要があったからです。種芋の植え付けは 4 月の予定です。島に自生するヒガンマムシグサが鹿柵の外でも食害にあっていないので、同じ仲間の里芋もシカの好みでないのをお願いします。

アスタバも試しに植えたいと思います。伊豆諸島の特産品として有名ですが清和地区でも栽培可能で、こぼれ種でも増えていると直売所で聞きました。味はお昼に汁物で試食の通りで、個性的な香りが有ります。苗は秋元さんから提供してもらえそうです。

そんな訳で今回は 2 畝作りましたが、当初の試行錯誤に比べると畝作りの手順も慣れて来て能率が上がっていると思います。畑の愛称は引き続き募集中です。(坂本)

○タラの芽食べた犯人は？

2月17日の定例活動日に植えたタラノキに大きな変化がありました。植え付け時に頭頂部を切断したもの以外のタラノキの頭頂部が噛み切られたように 5cm 程度無くなっていました。この犯人は誰でしょう。人がおいしいと思うタラの芽は動物も大好きなのかもしれません。この耕作地の周囲には 2m ほどの鉄線柵が張り巡らされています。この地を耕作していた方は『シカが柵を飛び越えた』と言っていたようです。やはりシカでしょうか。この春に新芽の成長を目にできるか、楽しみにしています。(秋元)

お知らせ

○4月21日(日) 9時30分、君津市清和自然休養村管理センター集合 年次総会、自由散策など。

○5月12日(日) 9時30分、清和県民の森木のふるさと館駐車場集合、県民の森～豊英島ハイキング。

○6月以降の活動日は 4月21日の年次総会で決定の後、お知らせします。

○新入会員の紹介 3月に松山紘之さんが入会されました。

松山さんは柏市在住、東京大学大学院修士課程在学中です。よろしくお願ひします。